

この件について、ご意見を伺いたい。

【横山委員】

中山間地域の自治体では、子どもたちは地元の小・中学校へほぼ進学をする。地元で勉強に励む子どもたちのいる家庭にとっては、非常に力強い支援である。

【市長】

他の市町が（医療費助成の拡充を）やっているから、やるべきだという意見もあったが、それでは地域間競争になってしまう。やはり国がしっかり問題意識をもってやるべきことだと思う。

しかし、こうして子育て家庭の医療費を支援することは、子どもたちの健康の増進につながることであり、こういう判断にいたった。

●②について意見交換

【横山委員】

まだ場所や施設概要は決まっていないのか。

【市長】

まだ決まっていないが、イメージとしては、近隣では三次市の「あそびの王国」や府中市の同様の施設などがあり、視察にも行った。

本来、もっと早くから事業化したいとの思いもあり、備北丘陵公園の「ふらり」も考えにあった。屋外では芝生で遊んでもらい、屋内では段ボールを使った遊具などもある。

安心して遊ばせることのできる環境があれば、親同士で話をしたり、おじいちゃん、おばあちゃんに子どもたちのことを頼んで、親は東の間でもリフレッシュができる。そのような施設が市内に必要であると考えている。

最初のきっかけは、以前、駅にあった「ひだまり広場」が施設も古く、狭かったので、何とかしたいとの思いから始まっており、丘陵公園の「ふらり」に遊具を置きたいという思いがあったが、なかなか国との議論が進まなかった。それなら市で施設を作った方がよいのではないかと考えた。もちろん費用の面や、機能の面など、課題は多くあると思っている。これからしっかりと議論を重ねてまいりたい。

【立花委員】

保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校と成長していくなかで、やはり安心して子育てができる環境を整えていただくことは、大変ありがたいと思っている。

私は、読書の推進に携わっているが、これから作られる施設に、本を置いたり、おじいちゃん、おばあちゃんのお話を聞ける場所など、心が和むものを是非とも取り入れ

ていただければよいと思う。

【教育長】

市長の挨拶にもあった、子供の読書活動の文部科学大臣表彰に選ばれた「おはなし会ダンボ」は、ボランティア団体が行っておられるが、この度、庄原小学校と民間の団体の二つが同時に受賞を決定したというのは、極めて稀なことであり、本当によかったと思う。

地域のお母さんやおばあちゃんが子どもたちを集めて読み聞かせを行っていることが評価されたのではないかと思う。

【渡部委員】

学生ボランティアに会を開いてもらい、子どもはもちろん親や地域の方、さらには学校にも参加してもらって大変うれしく思う。

【教育長】

庄原小学校では毎週、高学年が低学年に朝の時間を使って読み聞かせをしている。

また、「子ども司書」というものを、本市では毎年15人前後養成している。読書が好きなお子どもたちに向けた「子ども司書」のリーダー養成講座があつて、毎年、応募者がたくさんいる。

学校の図書コーナーの作り方にも工夫があり、階段の下に本棚が作られているところなどはその例である。このように本が気軽に読める環境が評価された面もある。

【市長】

子どもが読み聞かせをする取り組みは、どんな感じなのか。

【教育長】

読書活動は、とても良い取り組みになっている。

これまで文部科学大臣表彰を受けた東小学校や比和中学校でも、意欲的に読書する子どもが増えるような取り組みを行っており、高く評価されている。

また、口和中学校では、コロナ禍で停滞したが、中学生が高齢者宅を訪問して、高齢者の方に読み聞かせを行っている。これは県の奨励賞をとった。各地域で様々な取り組みがされている。

【市長】

この頃は図書館や児童館に漫画を置いているところもあるが推奨されているのか。本は写真や絵がないものもあるが、文字ばかりでは、なかなか読書に入りにくいこともあると思う。

【教育長】

いろいろなジャンルの中の1つとして、漫画を置いているところがある。

【立花委員】

司書の方々は、本に親しんでもらうために教科書や文学小説を漫画化したものを使って、子どもたちが読書好きになるようなきっかけを作り、導いている。司書の方々も研鑽を重ねておられる。

【横山委員】

日本神話というものは、習う機会があまりない。日本書記などが漫画化されたこともあって、とりあえず手に取ってもらえるということもあると思う。私は、漫画という手法を否定すべきではないと思う。ただ、全てが漫画に流れていくのではなく、そこから読書の世界へ子どもたちを導いていくことが大事だと思う。

【市長】

神話といえば、本市では日本神話の内容が入った「日本誕生の女神」という本を作り、評価されて、増刷となった。

話は、子どもたちと多世代の集いの場の整備事業に戻るが、やはり子どもたちは、急に病気になったり、思い悩んだり、親はその対応で悩んだりと色々あると思うが、親が悩みを気軽に相談するきっかけとなる場ができたらいいと考えている。

また、子どもたちが遊ぶ場には、やはり“木のおもちゃ”なども必要だと思う。木材を活用することで使える財源がある。子どもたちが木に触れやすいような環境を整備できればよいのではないかと思う。リニューアルする市民会館・自治振興センターにも“木のおもちゃ”を設置している。

【事務局】

市民会館・自治振興センターのフリースペースには、子どもたちが“木のおもちゃ”で気軽に遊べる場所を設けている。

【市長】

木材の活用に関しては、この度、「ウッドワン」が本市の木材を使って木のブランド化を行うことになっている。

また、庄原の材を使って製作されている家具などもあるが、大変良い評判だと伺っている。市民会館・自治振興センターの“木のおもちゃ”は庄原の材を使って製作していただいたし、伐採したケヤキも内装などに活用している。

こういったイメージの集いの場なのだが、まだ名前も決まっておらず、まずは計画を立てて、早く場所を選定していきたい。

子どもたちは遊んで、お兄ちゃん、お姉ちゃんたちはスポーツなどができて、家族が楽しめる場になればよいと思っているし、庄原にもこんな場所があるんだと思ってもらえるような場にしたい。

市の中心地だけに設置するのではなく、他の地域にも子どもたちが集まる場所や親が安心して子どもと過ごせるところには（新しく）遊具を置いてもいいと思っている。

場所も1箇所と決めるのではなく、これから詰めていきたい。

【教育長】

備北丘陵公園に孫と遊びにいったときに、公園は国が管理しているために、何も持ち出すことができないのが残念であった。セミをとる、バッタをとる、クワガタをとるなどしても持って帰れないのは、とても残念である。せっかく自然豊かなのに規制があつて、昆虫採取もできない。

新たに考えておられる公園では、そういったことも考え、子どもたちが自由にできればいいと思う。

(2) 庄原ファンクラブの取り組みについて

配布資料1に基づき、庄原ファンクラブの取り組みについて事務局より説明を行った。

●その他意見交換

【市長】

庄原ファンクラブは、まず庄原を知ってもらい、庄原に何があるのかをもっと発信していくための組織である。庄原の人たちにも友人などに発信してもらい、まずは庄原に来てもらうところから始めようと思う。当面は、会員を1,000人にすることが目標である。

【事務局】

現状では、500人以上の会員が集まっている。

【横山委員】

これは全く関係のない人が応募してもいいのか。

【事務局】

18歳以上であれば、市内・市街を問わず、どなたでも会員になっていただくことができる。

4. その他意見交換

【事務局】

市民会館がこの4月にリニューアルされ、新しくなる。何か、ご意見やご感想等があれば伺いたい。

【市長】

(市民会館には) 700人を収容できる大ホールというのがあるが、行事によっては大きすぎるとの意見もあった。この度、200人収容の多目的ホールを新たに設置した。

また、市民会館の庄原赤十字病院側にウッドデッキなどを整備した「にぎわい広場」を整備した。患者さんがリハビリで歩く道があればよいと伺ったことがあり、車椅子で病院の中だけを動くのではなく、外に出て、しっかりリハビリしてもらう場合に市民会館が活用できればいいと考えている。

【横山委員】

大ホールは非常に高級感があり、客席もとても立派なものになっている。

【市長】

(ステージが) 見えやすいように椅子を全部ずらしてもらったので、よくなっていると思う。

【教育長】

音響については、様々な会社のスピーカーを使って、色々な音を試した。

こんなにも会社によって特色の出し方が違うのかという印象であった。

【市長】

本日は説明が十分でないところもあったと思うが、皆様と有意義な会議ができたと思う。

今後も皆様と教育関係の話を交え、会議をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

5. 閉会 15時55分